

とうきょうすくわくプログラム

杉並東洋幼稚園 令和7年度活動報告書

テーマ 【自然体験】

設定した理由・背景

園の敷地が広いことから園庭に広がる様々な自然を活かすことにした。
樹木になる実、虫や生き物に園児たちが興味を示したため、「自然体験」をテーマとした園内で自然体験を深めることを目的とする

用意した環境設定

高枝切ばさみ シート 瓶 氷砂糖 ポウル
瓶 塩 しその葉 記録用スマホ 図鑑

【活動のあゆみ】

5月 園庭内の様々な自然に触れ、
テーマ決めをする

6月 園庭内にある梅の木について
実を収穫し梅干し、梅シロップを作る
下ごしらえをする

7月～2月 1学期に作った梅干し、
梅ジュースがどのように変化したか
観察する（見た目、香り、味など）

【探究活動の実績】

①普段から遊んでいる園庭内で、園内の梅の木に例年にないほど実がついていることに気づいた子どもが「食べてみたい！」と多くの子どもが興味を示し、テーマにすることとした。

②子どもたちと実際に梅の実を採ることを体験した。大きく広げたシートで落ちてくる梅の実をキャッチするために子ども同士で「あっちに多く実がついてる！」「こっちに引っ張ればいいんじゃない？」など子供たち同士で声を掛け合って考えながら収穫する姿が見られた。また収穫した実を観察し「スベスベしてる」「これは落ちたときに割れちゃってるから使いそうにないよ！」など調理に使いそうなものを選別しつつ梅の実を観察する姿もみられた。

③収穫した梅を実際に梅シロップや梅干しをつけることを行った。凍らせた梅と氷砂糖を瓶に交互に入れたり、塩を梅の実にこすりつけて瓶に漬けることを行ったが「これでできるのかな？」「どんな風にかわるんだろう？」という疑問の声が子どもから出ていた。また梅と氷砂糖を入れた瓶をクラスに置き、瓶の中の変化を毎日観察し瓶を混ぜてかくはんしてくれる子どもの姿が見られた。

④数か月後エキスを出し切りしわしわに変化した梅シロップに水を加えてを飲んでみたり、天日干しした梅干しを食べる活動を行った。

梅干しはお米に入れて炊き、梅干しごはんとして保護者と一緒に食べる活動を行った。子どもから「おいしい！」「塩つけたのに酸っぱいの不思議！」「他の植物の実も同じことをしたら食べられるのかも」などの声がきかれた。また普段は梅干しを食べないのに梅干しを食べている子どもも見られた。探究活動を通して子ども達もより植物に興味を示したり、食への関心をもつ良い機会になったように感じた。



【まとめ】

・図鑑で調べることができる環境を揃えていたからか、園庭の梅の実だけでなく、ビワの実の色づきに気が付き自分たちで実をもいで食したり、虫や花など身近な自然の変化に気づいたり、興味をもつ力が育ったように感じた。

・友だちと声を掛け合い、協力しながら収穫する中で、実が落下する所に声を掛け合ってブルーシートを移動させたり協同性や問題解決しようとする力が育ったように感じた。

・梅の変化を観察することで、季節の変化や梅に花がつくことなど、時間の経過による変化への気づきや探究心が育った。

・「なぜ酸っぱくなるの？」「他の実でもできる？」といった疑問をもち、学びを次につなげようとする姿が見られた。

・自分たちで作ったものを味わう経験が、達成感や自信、食への関心につながった